



Hypnotism Girl

基本CG 10枚 本編 56枚

「催眠術をやりたい？」

「そう、かなでそういうの信じてないから
かかるかどうか試してみたいんだ」



「あ、もしかしてかかっちゃうの怖い？」

「ば、馬鹿なこと言わないで！」

この私があんたみたいなのんこツの催眠術なんて
かかるわけじゃないじゃない！」

(あいかわらずちよろいな…)



「ちょっと、なんで全部締め切っちゃうのよ!」

「いやあ、二人っきりのほうが

かなでもリラックスするかなって」

「ふ、ふーん。まあ私は催眠術とか信じてないけどね」

「はいはいじゃあはじめますよって」



「はい。じゃあこの五円玉みててねー」

「う、うん…(よくあるやつだな)」

「リラックスしてー俺の声をよく聴いて」

「う…ん」

「この五円玉の穴に何かがみえてくるよ。何が見える？」

「私、かな…」

「そうだね、そこに見えるのが本当の君だよ。」





「これが、私…」

「そうそう」

君はただ俺のいうことだけに従ってればいいからね。
だんだん身体も動かなくなってきたね」

「う…(やだ、本当に動かなくなってる…)」

「でも大丈夫だよ。俺が命令したことはできるようになるからね」
(くっ…嘘よこんなポンコツに催眠術なんてできっこないんだから！)

「さあまずはおっぱいを出してみようか」

(う、嘘……嫌なのに私自分で服を脱いでる……！)

「どうだ俺に自慢のかばいみせて嬉しうだろ」

「はい……(嫌！嫌！おっぱいなんて見られたくないのに……！)」

「はあーしかしでかいおっぱいだな

そうだ、俺に揉んでくれって頼んでみろよ」





「(誰がそんなことおねがいするもんですか!)
...お願いします。」

かなでのかばいをえっちに虐めてください」

(やっ、なんで!?)

言いたくないのに勝手に...!」

「はあーしょうがねえな!

このでかばい虐めてほしいって

お願いされたらしょうがねえよな!」

(お願いしたくてしたわけじゃ...)



「はあ…」のでけえおっぱいが
触りたかったんだよ
これがかなの生おっぱい…
おっぱいはもちもちで
乳首はコリコリ…
なんて淫乱おっぱいなんだ
ほらっ喘げ！喘げ！」
(あっやだ！そんな触られかたしたら
だめっ気持ちよくなっちゃう！
だめ！これは私の意志じゃないのぉ！)

あーん

あーん
♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡

リ
ビ
ク
ン
ッ

もっ
♡



「ほら、

今度は机に乗って
股をみせろ」

「はい…たくさんみてください…」

(や、やだぁ今あそこなんて
みられたら…感じてたのがバレちゃう…)

「ふうん。乳首いじられただけで
こんなにお漏らししたのか

かなでは見た目優等生なのに
実はこんなにエッチだなんて
クラスのとつらに見つかったら
大変かもなぁ」

にゅ
にゅ



「ほらばんつも脱いで、
あーあ今誰か来たら
大変だなかなで」

(そ、そっだ…ここは学校で…)

「クラスのやつなんかみんな
かなででシコってんだぞ。

かなでと幼馴染で羨ましいとか
えろい身体盗撮してくれとか

頼んでくる連中だから

こんな姿みられたら即ハメされちゃうね」

(嘘、私そんな風に思われてたの…)

もし誰かにこんなとこみられたら…)

お
わ



「あれ？おまんこヒクヒクしてるけど
自分がハメられる想像でもして
期待してる？」

（そ、そんなわけない！

でも、こいつのおちんちんでかいし

熱くて…おかしくなりそう…）

「まあでもかなでの一番は

全部俺って決めてるんだけどな

な、かなで」

「は、はい…

かなでの初めては全部あなたにあげます」

（まって、私このまま…はじめてを…）

い！
ズ
ツ
ツ

おっ
♡
お
♡

(Handwritten notes in red ink, partially obscured by a black circle)



「あーあ馬鹿みたいに喘いじゃって可愛いなあ」

「ほらっ 幼馴染様の精液
沢山やるからな」

「ちよつと騒ぎすぎだから
声は抑えろよー」

「あーでるっだすぞ！」



[illegible]

「可愛い顔してるし頑張るか」

おほ、
あ、あ



「ん……」

「あれ、私…家…？
服、自分で着替えたのかな…」

「でもなんか股がぬるぬるする…
やだな、生理かな」



「これ、違う…
そっだ私学校であいつに…
やだ…早く中の出さなきゃ」

「出さないと、あ、赤ちゃん
できちゃうかもしれないし」

ぢゃあ…
ぢゃあ

「う、なんか沢山でてきた…
あ、あいついったいどれだけ出しててるのよ」

「……ここにあいつのが挿入ってて…
私初めてだったのにあんなに
馬鹿みたいに喘いで…」





(んっ...だめ...
あの時快感がほしい...)

「んっ...いつもみたいに
弄ったら気持ちいいはず」



(な、なんで…
気持ちいいけど違う…)

(たりない…たりないよ…
あいつのあの太いのがほしい…)



(「こっつじゃない！
浅いところも気持ちがいいけど
違う……！」)

ちゅっ……
はなっ
はなっ

ムにゃない……

(あいつが挿入ってたときは
もっと太くて奥のほうを……！)

ぽっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

「おはようございませう
って、かなでしかないんだけどな」

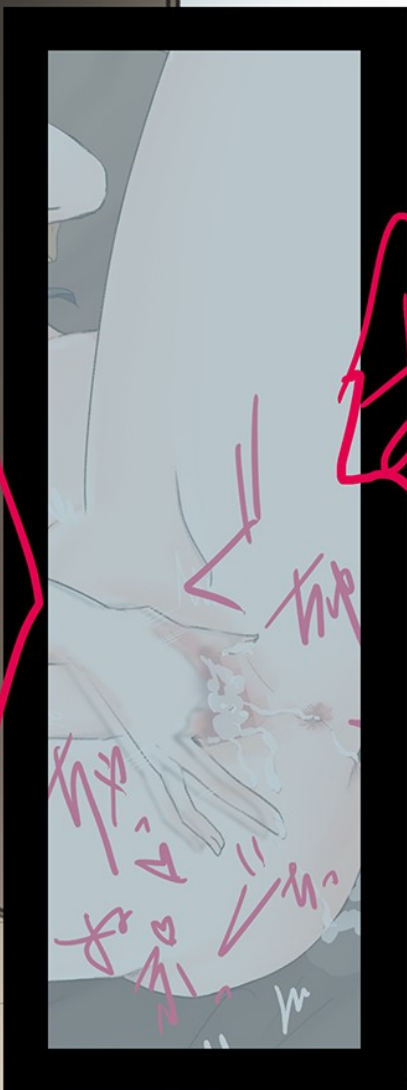
かなでの両親は今は旅行中でいない
だからなにかあったらよろしくねと
家の鍵を預かっている。

「これが幼馴染の特権ってやつだな」

「ん？かなでもう起きてるのか？
まだ早い時間だけど物音がするな
二階にあがってみるか」



「やっぱりかなでの部屋から声が聞こえる…」



「ふーん、なるほど。
寝てるどころ悪戯してやろうと思ったけど
これは予定変更だな
とりあえず一回いったあたりで声をかけるか」





「おはようかなで
一人で楽しそうなのを見てたんじゃん」
「お、おはおう」「じゃいましゅ…」

み、
みられたっ

ちんぽっちんぽっ
ほしいっ
今すぐほしいっ

あ、あれ？

なんで近くまで来たのに見てるだけなの？

「ん？どうしたの？続けていいよ

おばさん達はいないし大きい声出していいんだよ」

続けろ？嘘でしょ

私昨日のこいつのちんぽのせいで

いくらオナニーしても足りないのに……っ



ね、ねえこゝ凄いでしょ
あんたのそれ今なら特別に挿入れていいわよ

「え？いや別にいいかな」

な、なによ
別に遠慮なんてしなくていいのよ
その租チン
挿入れていいって言ってるの



「はあーてかさあ酷くない？」

昨日意識なくしたかなで連れて帰って
服までかえてやったの俺なんだけど」

そ、そうだったの…？

(だから

家に帰った記憶がないのか)

「それなのになんでは

ずっと一人エッチしてさ」

そ、それは

う

「しかも偉そうに俺に指図すんの
忘れたの？お前は俺の言うこと
きく立場なの。
つまり、お願いする側ね」



『イキながらお願いしろ』よ



「んーでもなあ

偉そうな態度をなかったことにはできないし…
「ごめんなさいの代わりになんかする？」

にゃっ…♡
ニャんでも
しましゅう

「そっかそっか
かなでがいい子で
俺嬉しいよ」





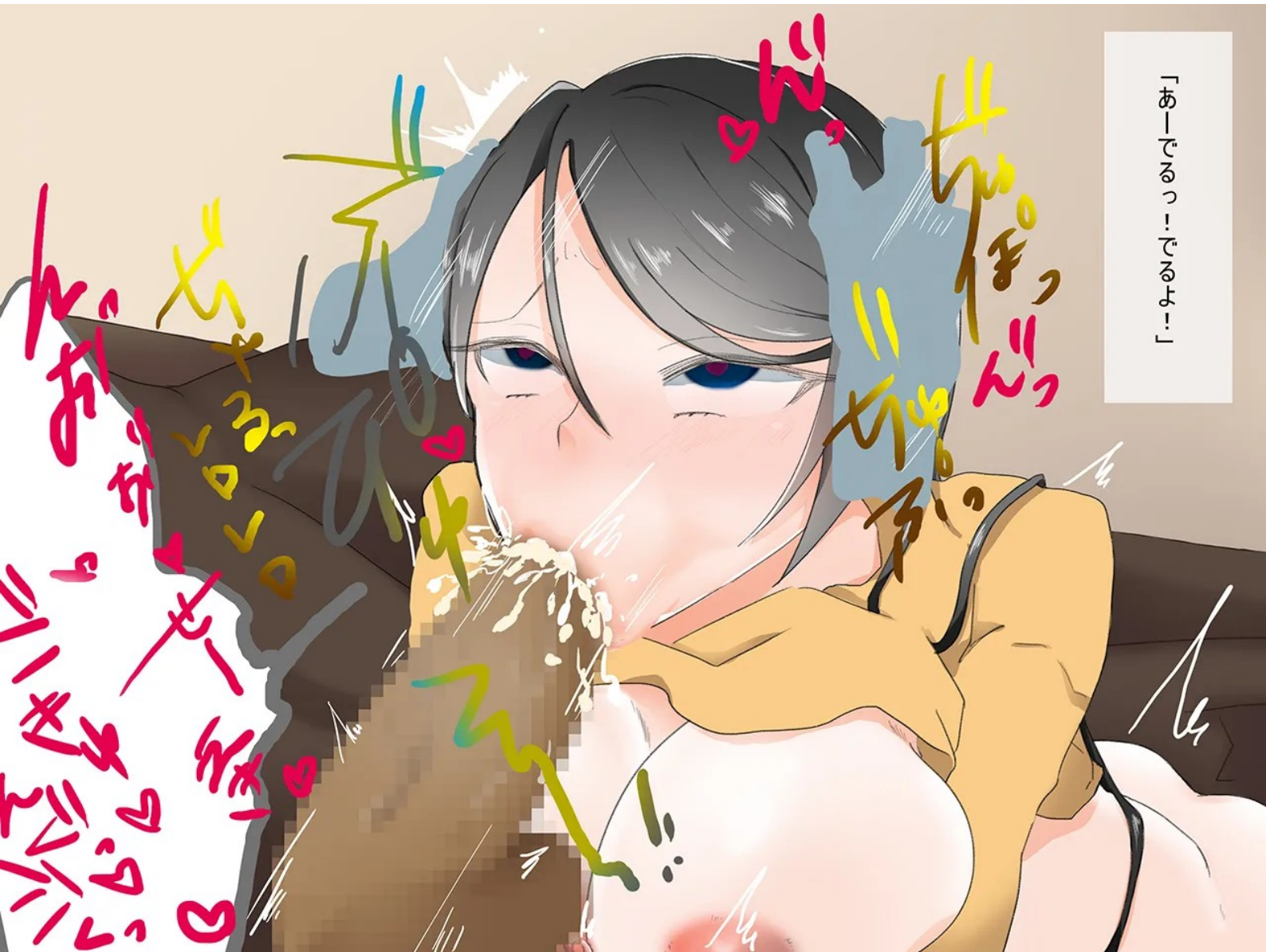




「もっとっっっっっ奥までっっ」

「あーきもちー……」

「あーでるっ！でるよー！」





「よしじゃあ次は
服脱いでうつ伏せになって
けつをあげろ」

「……」

はぁいっ♡

お♡
ちゃ♡
お♡
ちゃ♡



「何回言ったら
分かるんだ！」

「態度が違うだろ……！」



「あー？なんだって？」

「早く言わないと
イキ地獄にするぞっ！」

「ケツ穴もまんこも
ヒクヒクさせてちゃ
説得力ねえなあ」



「はあー許してほしいか？」

はいはい

「じゃあ今から
かなでの催眠解くから」

へえっ

さ、催眠術なくなったら…
あの気持ちいいの
なくなっちゃうんじゃないか？

「俺はかなでの本心を知りたい。
な、かなではこれからどうされたい？」





「ね、教えてよ

かなではどうされたいの？」

「…」



「もつと焦らすつもりだったのにっ
思わず挿入れてしまったよ」

「あーそういえば強制的にイカされるのが
お好みなんだっけ？」





「あはは、全身気持ちいいねえかなで」

「乳首でイケ！
クリでイケ！」

「おらっイケ！
潮ふいてイケ！」









「ははっ潮癪になっちゃった?」

「おらっ! イケ!」

おっ!
あっ!
もひ!
っ!

おっ!
あっ!
もひ!
っ!

おっ!
あっ!
もひ!
っ!

ッ
ッ!

おっ!
あっ!
もひ!
っ!



「まったく、騎乗位するなり
ちゃんと自分で動けよ！」

「俺、下から動くの疲れちゃったよ」





「安心してよかなで」

ぶっ
ぽん

ぶっ
ぽん

ぶっ
ぽん



「また蓋してあげるからさ」



「じゃあこれから
ズポズポする約束しようか」







「というわけで
末永くよろしくな
かなで」

















































































































